

2020年度 長野県岡谷東高等学校シラバス

教科	芸術	科目	音楽 II	単位数	2	学年	2	コース	教養フロンティア（人間系） 健康スポーツ
								必修・選択	必修（芸術選択）
使用教材		教科書							
		●高校生の音楽2（音楽之友社）							
副教材		○コンコーネ50番 中声用（全音楽譜出版社） ○音楽科で作成した資料 および 楽譜							
		○音楽科で作成した映像資料（DVD・VTR等）							

学習目標

- 音楽の諸活動を通して、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、個性豊かな表現の能力と主体的な鑑賞の能力を伸ばし、音楽文化についての理解を深める。
- 歌唱活動・器楽実習等の経験により、読譜力（楽譜の縦方向＝音の高低）を高める。
- 幼児教育・保育・福祉系の進学时に求められる「音名」「音階（調性）」を整理する。
- 基本的なコードネームの構成音を解説し、両手でピアノを弾くことに挑戦する。

学習方法

- 1学期末：授業時間内に筆記確認（考査相当）を行い、知識の理解度の確認をします。
- 2学期末：鍵盤の配列を観察した上で、長音階・短音階（自然・和声・旋律）を作成。
それを基に各調の主要3和音を整理させ、完成した楽譜と音を確認します。（スタンプラリーの実施）
- 3学期末：身近なメロディーを「右手～左手ベース音付～左手コード付～左手伴奏付～ギターの伴奏～電子オルガン演奏」と段階的に練習し、完成度を確認します。（スタンプラリーの実施）
- 実技を伴う評価の際には、「録音 または 録画」を行いますので予めご了承ください

学習評価

○次の四つの観点に基づき、学習内容のまとまりごとに下の評価マトリクスにより評価を行い学年末に5段階の評定に総括します。	
①関心・意欲・態度	○授業日程を把握し、計画的に課題に取り組む姿勢があるか。 ○積極的に授業に参加できているか。 ○必要とされる知識を自ら調べ、整理しようとする意欲があるか。
②思考・判断・表現	○作曲者や編曲者の意図について理解し、演奏に反映しようとしているか。 ○楽譜に書き込まれた情報を正確に読み取り、的確に表現できているか。 ○ファイルを用いて授業資料や楽譜を順番に整理できているか。
③技能	○正しい演奏姿勢、運指で楽器の演奏に臨んでいるか。 ○楽譜に忠実で、丁寧な演奏を心掛けているか。 ○ただ単に音を並べるだけでなく、表現力豊かな演奏ができるか。（実技を伴う評価は、録音・録画を行います）
④知識・理解	○題材の作曲者や、作品の背景について理解できているか。 ○楽譜に書き込まれた情報を正確に読み取ることができているか。 ○施設・楽器・演奏補助具等の使用法やマナーについて理解し、大切に使用できているか。（片付けも含む）

評価方法\観点	評価の観点				備考
	①	②	③	④	
出席状況	◎				
学習記録の記載・提出	◎	◎			学習記録表
課題の達成度		◎	◎	◎	筆記・楽譜作成・創作
実技	◎	◎	◎	◎	作音楽器・VTR録画

※表中の◎は観点の中でより重視するポイントです

※それぞれの評価の観点はA、B、Cの三段階で評価します。

学習方法等のアドバイスなど

- 「音楽」は「音を楽しむ」と表記しますが、授業という「学びの場」では「音学」になります。楽しいハズの「音楽」が「音学」になれば、必然的に「音が苦（手）」になってしまいます。 学び、苦しみ、それが克服できると「本当の楽しみ方」が分かってくるのだと思います。
- 授業に欠席しないこと。実技科目は積み上げ学習ですから、欠席すると分からなくなります。
- 授業時のNGワードは「こんなの無理！」。最後まで諦めないで腰を据えて取り組むこと。
- 芸術科目は「失敗」を重ねることにより上達します。「失敗」を恐れずに頑張らしましょう。

年間学習計画

学期 時間数	学習内容	学習のねらい	学習活動 【評価方法】
4月 4～10月 授業の前半 21時間	○オリエンテーション ○音程感覚と歌い方のトレーニング ○身近な歌唱教材を歌おう ○沖縄の歌を歌おう	・授業内容について周知徹底 ・「階名読み〜唱」を定着させる。 ・音名の読み方の確認と定着。 ・音程感覚と歌詞の扱い方。 ・拍子の感覚や音程感覚・強弱・フレーズのとらえ方を学ぶ。 ・表現力や読譜力を高める。 ・修学旅行で訪ねる「沖縄」の音楽について学ぶ。	・本シラバスの読み合わせ・注意事項 ・年間の授業計画 ・「コンコーネ50番 中声用」を用い、拍子の感覚や音程感覚・強弱・フレーズのとらえ方を学ぶ。 ・教科書を中心に身近な教材を扱う。 その曲の持つ背景を分析し、階名唱・歌詞唱することにより表現力や読譜力を高める。 ・「沖縄」について音楽的な観点から学習する。 大陸文化の影響を受けた琉球音楽について触れ、「長音階と琉球音階の違い」「三味線と三線(蛇皮線)の関係」について理解を深める。 ・「鳥唄」の歌詞に隠された本当の意味を探る。
4～10月 授業の後半 20時間	○読譜力の養成 楽譜の縦軸「音の高低」を学ぶ ～「長音階」「短音階」を作る ～各調「主要3和音」を整理する ～基本的なコードネームの読み方	・読譜に必要な最低限の知識を学び、整理する。 ・鍵盤の配列を考察する。 ・長音階を作成〜短音階(自然・和声・旋律)を整理〜主要3和音へと発展させる。	・幼児教育および保育・福祉系の進学时に求められる「音名」に関する知識を整理し、鍵盤の白黒の配列を観察しながら「長音階」全調を作成する。 ・完成した長音階を基にして「短音階(自然・和声・旋律)」を整理する。 ・完成した長音階と短音階(和声)を基にして各調の「主要3和音」を整理して実音で確認する。 ・大衆音楽の標記「コード」の基本的な読み方。
11～2月 20時間	○器楽実習 両手でピアノを弾こう ～ギターのコード伴奏に挑戦 ～電子オルガン(足付)にも挑戦	・1年次(音楽I)から現在までに学んだ知識と演奏技術を使いながら、両手でピアノを弾いてみよう。 進度の早い者は、ギターでコード伴奏や電子オルガンでベース音付きも学ぶ。	・段階別学習〜スタンプラリーの実施 ①右手でメロディー ②左手でコードの根音 ③左手でコードの構成音 ④左手で伴奏付け ⑤ギターでコード伴奏 ⑥電子オルガンで足付
4～11月 12月 9時間	○身近なクラシックを鑑賞しよう ○世界の音楽的年末恒例行事	・教科書の鑑賞教材を中心に、一般教養として押さえておきたい音楽を扱い、芸術文化を味わう。 ・世界の年末に必ず流れる「J.シュトラウスII世」の音楽について学ぶ。	・テレビ番組の編集映像を資料に用い、それぞれの時代や国の芸術・音楽文化について学び、後世に名が残る偉大な作曲家についての知識を深める。 ・ドイツ語圏内の年末(年始)に親しまれているヨハン・シュトラウスの作品について学ぶ。 ・ヨハン・シュトラウスI世(父)とII世(長男)ヨーゼフ(次男)のウィンナ・ワルツについて ・喜歌劇(オペレッタ)「こうもり」全幕鑑賞することにより舞台芸術に触れる。